

ちいきを

つ・な・ぐ

みやぎボランティア総合センターからボランティア活動や
防災活動、福祉教育などさまざまな情報を発信します

村田町社会福祉協議会

沼辺笑楽寿来

地域で子どもたちを育てる

村田町沼辺地区の「沼辺笑楽寿来」(以下、「笑楽寿来」)は、平成19年、村田町社会福祉協議会(以下、「社協」)が地域の行政区長や民生委員、老人クラブ・ボランティア会員などに呼びかけて「福祉教育」を推進するために発足。以降、学校と協働しながら郷土文化や昔の知恵を子どもたちに伝えたり、世代間交流の活動を行っています。今号では、地域の大人から子どもへ、郷土文化や知恵の伝承を通じて、子どもたちの豊かな心と郷土愛を育むこの笑楽寿来の活動について紹介します。

「地域から学校へ飛び込む」

笑楽寿来では発足当初、地域の課題について話し合いを重ね、地域と子どもたちのつながりを深めるためには、「学校」に、地域が一步踏み込むことが大事だと気付きました。村田町立村田第二小学校の協力のもと学校内の空き教室を利用して笑楽寿来教室を開設し、そこを拠点に様々な行事を計画・実施しています。米づくりやもちつき・昔の遊びなどを体験したり、地域の単独・夫婦世帯の高齢者を招いて七夕を祝うなど世代間交流を行っています。メンバーが学校に行くと、児童たちが笑顔で駆け寄り「今日は何をやるの?」



▲5年生の米づくり体験(田植え)の様子。初めて田んぼに入ったという子どもも多く、地域の方に教わりながら、はじめは恐る恐る、でも楽しそうに苗を植えていきました。

「何年生の活動をするの?」と口々に問いかけていました。笑楽寿来が学校で自然に受け入れられ、子どもたちが活動をとても楽しみにしていることがうかがえます。

「自分たちができることを」

笑楽寿来の活動は、メンバー一人ひとりの「できること」を組み合わせて成り立っています。また、メンバーでできないことは地域の中でそれを得意とする人に頼みます。そうすることで「子どもと地域」だけでなく「地域住民同士」のつながりも深まってきています。活動を通して「地域の中で互いの顔が見え、互いが気にかけて関係性」が生まれてきており、子どもたちへの福祉教育として始まった活動が地域の支えあい活動や見守り活動にもつながっているといえます。

「自分たちも楽しく」

笑楽寿来代表の渡辺さんは、「地域の人と人とのつながり」と、自分たちも楽しんで取り組む」ということを大切にしている」とお話ししてくれました。メンバーの皆さんは純粋に子どもたちとの交流を楽しみ、成長を間近で見守れることに喜びを感じています。また、村田町社協の根元さんは「メン



▲村田町立村田第二小学校に設置された笑楽寿来の教室と、そこを拠点に企画会議を行うメンバーの様子。終始楽しげなムードの中、話し合いが行われています。

バーの一人ひとりが楽しく活動し、自分たちから活動を展開している様子は「地域の連携」を感じさせられる。社協が目指す「地域の連携」は、まさしくこの活動だと思」と話されます。今回の取材を通して、子どもも大人も無理なく楽しんで取り組む、このような福祉教育の推進が地域住民同士のきずなを深め、地域の福祉力・防災力を高めることにつながっていくのだと改めて感じました。

宮城いきいき

シニアだより

県内にお住まいの
元氣シニアをご紹介します!

平成5年から毎年県社協が開催している「宮城シニア美術展」において、平成5年の第1回から昨年の第22回まで毎回欠かさず日本画の部門に出展している鈴木健次郎さん(仙台市宮城野区在住、88歳)にお話を伺いました。

鈴木さんと宮城シニア美術展とのつながりは、平成5年、当時同じ日本画の教室で習っていた人に勧められ第1回宮城シニア美術展日本画の部に出展したのが始まりで、以後毎年出展してきており、昨年、1昨年と連続して最優秀賞を受賞しました。また、河北美術展や仙台市のシルバー創作展などにも作品を出展しています。

鈴木さんは、30数年前55歳で中学校教員を定年退職したのを機会に日本画を習い始めました。最初は通信教育で習っていましたが、直接習いたいとの思いで仙台市内の日本画教室に通い本格的に日本画を習うようになりました。

「初めはなかなか描けなかったが、描いているうちに何とか描けるようになった。継続してきたことが今の自分を支えている」と振り返っていました。

鈴木さんは、風景画が主な題材で、毎年、河北美術展、宮城シニア美術



展、仙台市のシルバー創作展に出展する3作品程度を創作し、今まで100点程度の絵を描いてきています。今も1日のうち午前2時間、午後2時間程度絵を描いているそうです。

日本画は絵具の材料が岩絵具を膠(にかわ)で溶かして色を作るなど面倒だと思っている人が多いせいか、日本画を描く人は洋画よりも数少ないといえます。

鈴木さんには、「自分の思いどおりに作品を仕上げられた時が一番嬉しい時、審査に関係なく作品が完成した時が至福の時」と感慨深げに話してくださいました。

「日本画には独特な表現があり、何とかそれに近づきたいと思っているがなかなかできない。今まで絵を描いてきて途中で投げ出すことはなく、描き始めたら途中でやめない。手を付けたら必ず自分なりに仕上げるようにしてきた。真っ白な和紙に何を自分でやっていけるかそれが楽しみで、自分の世界を作ること。それが創作だと思」と熱く話してくださいました。

鈴木さんは、題材を少しずつ変えてきているが、これからは他の風景を組み合わせて心象風景などを描いていきたい、と今後の創作活動への抱負を話されました。

また、宮城シニア美術展に対しては、「展示期間が4日間では短すぎるので、予算上無理かと思うが、もっと長くして欲しい。また、出展関係者だけでなく多くの県民の方々に作品を見ていただきたい。それによって出展者の今後の創作意欲もさらに湧いてくることだと思。それにはもっと有効にPRした方が良くと思う。」とのご意見もいただきました。

相談 Q&A

Q 以前ヘルパー2級を取得しましたが、今まで福祉の仕事の経験がありません。これから仕事をするにはできますか。

A 事業所によっては資格がなくてもまた未経験の方でも募集採用しています。また、多くの事業所では初めて福祉の仕事をする方や、ブランクがあった方へ様々な研修会を多く取り入れているので安心して働くことができます。

Q 福祉の仕事は、どのような仕事がありますか。また、どのような人が適していますか。

A 主に介護・看護・保育・リハビリ、相談援助、栄養管理、運営管理などがあります。特に人と関わることに好きな方、明るい方、思いやりのある方を求めている事業所が多いです。

Q インターネットで「福祉のお仕事」を検索する時の求人の方について教えてください。

A ①福祉人材センターでは、福祉の仕事に関するサイトを開設しています。「福祉のお仕事」では、自分の希望する就職地域や職種などを

宮城県福祉人材センターでは、「福祉の仕事がしたい方」と「職員を採用したい事業所」などへの情報提供や様々な相談を受け付けています。また、福祉の職場説明会・ガイダンス・移動相談会・各種講習会を開催しています。窓口相談の中から事例を紹介します。

入力して最新の求人情報を検索することができます。
②また、ご自身で当センターの紹介状に代わる「応募用紙」を発行することができます。
<http://www.tukushi-work.jp/>
インターネット検索 ↓ 福祉のお仕事

詳しいことは、当センターにお問い合わせください。

◎福祉の仕事移動相談会開催中◎
実施場所 圏内ハローワーク9か所
(気仙沼・築館・迫・古川・大和・石巻・塩釜・大河原・白石)
日程を確認のうえご参加ください。

宮城県福祉人材センター
○利用時間
9時～17時
(月曜～金曜・第3土曜日)
○休日
土曜・日曜・祝祭日・年末年始

○お問い合わせ
〒980-00014
仙台市青葉区本町3丁目7-14
宮城県社会福祉会館1階
TEL
022-262-9777
022-261-9555
FAX
022-261-9555

